

AC13 サンゴクイズ

実施のしかた (PDF)

1. 指導者はフリップボードを持って、参加者全員が見える位置に立ちます。

参加者が二択クイズの答え（赤・青）に分かれられるように、あらかじめ中央に線を引くなどして、赤・青の移動場所を決めておきます。

2. 参加者にフリップボードを見せながら問題を読み上げます。

指導者は「みんながサンゴについてどれくらい知っているかクイズをします」と告げて、最初の質問をします。参加者はそれぞれに正しいと思う答えの方（赤か青）に移動します。

3. それぞれの回答を選んだ参加者に、その理由をインタビューします。

間違った説明をしていますが、ここでは参加者の意見は否定しないようにします。

他の人のいろいろな考えを聞くのは勉強になります。そして、生物の世界には例外も多く存在するものです。一般的には間違いでも、“完全な間違いではない”という答えもあります。

4. 指導者が正解を発表。解説を行います。

* 同じように、次つぎとクイズを行い、サンゴの基礎知識を伝えていきます。

<問題と答えの説明（例）>

*それぞれのフリップボードの裏に、問題や答えを貼っておくと便利です。

■質問1「サンゴは石でしょうか？ 生き物でしょうか？」

答え：サンゴは生き物です。海岸に落ちているのは死んだサンゴの骨格です。

■質問2「サンゴは生きものですが、植物、動物のどちらでしょうか？」

答え：サンゴは動物です。動物プランクトンを捕まえて食べたりもします。ただし、生きていくための多くのエネルギーを、体内に共生している植物プランクトン「褐虫藻」が光合成をしてつくった養分から得ています。そのため、生きていくためには“たくさんの太陽の光が必要”という植物的な面も持っています。

■質問3「サンゴは動物ですが、クラゲ、ウニ、どちらの仲間でしょうか？」

答え：クラゲやイソギンチャクの仲間です。生きているサンゴは、浜辺でよく見られるかたい骨格のまわりに柔らかい部分があり、これをポリプと呼んでいます。ポリプはイソギンチャクとよく似た形をしていて、口や触手があります。大きなサンゴもよく見ると、小さなポリプが集まった集合

住宅のような構造をしています。クラゲ、イソギンチャク、サンゴは「刺胞動物」という動物で、触手には「刺胞」という毒のカプセルが入っており、これを発射して餌を捕らえるのが特徴です。ちなみにウニはヒトデやナマコの仲間です。

■質問4「サンゴはどのように増えるでしょう？ 卵を産む？ 分裂する？」

答え：両方です。春になると一つひとつのポリプがいっせいに卵を産みます。そして海面で受精をして、プラナラというプランクトンになり、潮の流れによって移動します。やがてすみやすそうな場所を見つけるとくっついてポリプに姿を変えます。その後は、ポリプが分裂を繰り返して、大きなサンゴへと成長していくのです。

■質問5「サンゴは歩くことができる？ できない？」

答え：両方です。多くのサンゴは岩などにくっついて移動することはできません。けれど、なかには自由に動き回るサンゴもいます。クサビライシという種類のサンゴは、ゆっくりと移動することができます。

*参考画像：動くサンゴ

■質問6「サンゴが住んでいるのは浅い海？ 深い海？」

答え：太陽の光が届く浅い海です。褐虫藻が光合成をして養分をつくれるように、多くのサンゴは水深 20mより浅い場所にすんでいます。ただし、透明度がとてもよい場所では 20mより深いところでも暮らせるようです。また、褐虫藻と共生しない「宝石サンゴ」の仲間は、水深が数百m以上の深い海にすんでいます。

■質問7「サンゴが好きなのは冷たい海？ 温かい海？」

答え：サンゴは温かい海にすんでいます。サンゴが生育できるのは 18~30℃といわれ、日本では沖縄や奄美群島などの海でたくさんみられます。ただし、海水温が高すぎたり低すぎたりすると褐虫藻が減って、サンゴはだんだん白くなり（白化現象）、この状態がしばらく続くと養分が足りなくなって死んでしまいます。サンゴが好きな温かい海も、30℃を越えるような高い水温が続くと、サンゴにとっては暮らし辛いのです。

■質問8「これはサンゴ？ サンゴ礁？ どちらでしょうか」

答え：サンゴです。詳しくいうと、死んでしまったサンゴの骨格です。「サンゴ」というのは生きものの名前で、骨格も含めてサンゴと呼びます。サンゴ礁は、サンゴなどの生物が作り出した骨格や殻が、長い年月をかけて堆積してできた石灰質の地形のことを指します。

*参考資料：ファクトシート「サンゴ I 多彩なサンゴは、生きている！」「サンゴ II サンゴ礁に迫る危機」